授業科目	比較文化論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	神崎　明坤						
授業概要	世界の国々（主として中国）と日本の文化について毎回、１つのトピックに絞って比較をする。それぞれの文化にはそれぞれの長い歴史や置かれた環境の影響があるため、そのようなことについても学んでいく。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	さまざまな国の文化を同時に学ぶことを通して、多文化が共生できる社会を構築するにはどのようなことが必要か、自分には何ができるのかを知る。 日本と他の国の文化の違いを知ることができる。
理想的レベル	日本と他の国の文化の違いが生まれた背景を理解できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	50%	
小テスト	20%	
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	30%	
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	T011805J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
復習	4

授業計画	
第１回	授業の概要の説明 「文化」の概要説明
第２回	地理的視点での文化比較
第３回	歴史、政治及び経済
第４回	宗教及び日常生活
第５回	思想（儒教、道教、仏教）について
第６回	日本人と中国人の物の考え方に関する相違
第７回	衣食住
第８回	お茶の文化

第 9 回	祭り、イベント（年中行事）
第 10 回	若者の文化及び価値観
第 11 回	文学と言葉（１）
第 12 回	文学と言葉（２）
第 13 回	教育
第 14 回	映画の鑑賞
第 15 回	纏めと試験
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	サミュエル・ハンチントン、『文明の衝突』、集英社 尾形勇、上田信等『中国の歴史』1 巻から 12 巻　講談社 近藤治等『アジアの歴史と文化』、同朋舎
課題に対するフィードバックの方法	小テスト、発表、レポートや定期試験等を実施します。小テストや発表評価は採点後、返却します。 15 回目の授業中に定期試験を実施します。 授業中には、受講生の発言を求める機会を多く設けます。多文化共生には「声をあげること」も重要な要素であり、積極的な参加を期待したい。
学生へのメッセージ・コメント	学内外の国籍が異なる人々となるべく多く会話をする機会を設ける。 授業では国際的な視点での多文化共生を学ぶので、授業で学んだことを日常生活で生かしてください。まずは、身近に接する（特に自分とは異なる）人たちと共生することを意識してください。